

○朝日新聞

DI人材の説明にあった「地元学」とは、具体的にどのようなものですか。

○教育長

佐賀の歴史や産業の発展、佐賀で起業した人、活躍している人から話を聞き、佐賀への誇りや愛着を持って未来への方向性を学ぶ場所です。

Uターンで戻ってきた講師からも話を聞けるので、佐賀で働くことを考えるいい機会になります。

○朝日新聞

講師は決まりましたか。

○教育長

佐賀大学の先生、有明高専の先生へ打診しています。企業の協力も得たいと考えています。

○朝日新聞

彩志学舎中学校の入学生の学びたいことが何か、分かれば教えてください。

○教育長

10代から70代までいらっしゃるので、学びたいことは違うと思います。面談をしながら、進路や学びたいことに寄り添っていきます。

○朝日新聞

校則の見直して、学校外の活動とはアルバイトのことですか。

○教育長

アルバイトのほかに、「カラオケボックスに保護者と同伴でも行ってはいけない」という小・中学校の校則がありました。校則を一方向的に学校が考えるのではなく、何のためにあるのか、どうすればいいのかと校則を見直す機会にしてほしいと思います。

○朝日新聞

ペーパーティーチャーの研修から受験される人は、何人ですか。

○教育長

ペーパーティーチャーから受験ではなく、講師としての採用です。研修を受けた中から2名が、現場で活躍中です。

○佐賀新聞

人工芝のグラウンドの拡充など整備の時期は、令和6年度中ですか。

○教育長

子どもの挑戦を応援する5校の取組は、令和6年度に行います。

○佐賀新聞

学びと挑戦を支える環境づくりに選ばれた学校の理由を教えてください。

○教育長

学びの施設等の整備は、児童生徒が安心して学べる環境づくりのため、特別支援学校の整備や老朽化した施設の計画的な更新、産業教育設備の充実に取り組んでいくものです。

一方で、子どものチャレンジを応援することも大事であり、唯一無二の学校づくりを進めていく観点から、ここに掲げる5校について、限られた予算の中ではありますが、取組を進めていくこととしています。

○佐賀新聞

特色ある取組にチャレンジする学校を中心に整備を進めていくということでしょうか。

○教育長

唯一無二の学校づくりと施設整備がイコールではありませんが、唐津青翔高校であれば学校施設のリノベーションを行うなど、目指す学校づくりを実現するためには施設整備が伴うこともあります。

各学校の状況を見ながら、どのタイミングで何をするかを考え、必要な取組を行っているところです。

○佐賀新聞

医療的ケアアドバイザーは、各学校に1人ですか。

○教育長

県教育委員会事務局に1人です。各学校の看護職員へのアドバイスをする役割です。

○佐賀新聞

常駐ですか、不定期ですか。

○教育長

基本は事務局にいます。常駐で、各学校を回る形です。

○日本経済新聞

県内1人1台端末は、何台設置されていますか。費用を知りたいので、例えば何年前に入れたものを何台更新するという形で教えてください。

○教育長

市町の小・中学校の1人1台端末は、導入時期がばらばらです。来年度は、2市町分ですが、台数など細かな数字は、担当から改めてお知らせします。

国の交付金を基金に積んで、その中から毎年度計画的に出しています。来年度の更新希望

が2市町だということです。

○日本経済新聞

公立学校の端末は、新しく買い替えるのですか。

○県職員

県立学校は、すべてリースです。令和2年度、3年度のGIGAスクール構想で入れた市町立学校は、ほとんどが購入で、1市町がリースでした。

○読売新聞

医療的ケアアドバイザーは、どんな人を配置するのですか。

○教育長

指導経験のある看護師を会計年度任用職員として雇用し、配置したいと考えています。

○読売新聞

今年度は、5年生までが35人学級ですか。

○教育長

今年度に5年生までが35人学級を実現しています。来年度は、国に先駆けて6年生を35人にします。1学年、先行しながらやっています。

○読売新聞

来年、教員は何人増えますか。

○教育長

35人学級にすると、24人の教員が必要だと計算しています。